

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490300193		
法人名	医療法人 誠雅会		
事業所名	グループホーム さつき		
所在地	大分県中津市三光土田 1242-1		
自己評価作成日	平成29年12月1日	評価結果市町村受理日	平成30年2月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成30年1月12日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑豊かな自然に囲まれた環境の中で入居者の皆さんと職員と一緒にホームの畑で花や野菜を作り収穫し調理して食べるなど季節の移り変わりを感じていただいています。楽しく会話するなどホームの明るい雰囲気作りに努め笑顔が絶えないよう日々努力しています。日常生活においてはできるだけ自己決定できるように複数の選択肢を提供するように心掛けています。認知症の進行で物事がだんだんと認識できなくなっている方に対してもさりげない声かけや対応を心掛けるなど配慮しています。入居者本位の理念の下に入居者の皆さんがご自分のペースで穏やかに生活できるよう様々な支援を行っています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・利用者本位の理念のもと、利用者、家族と話し合いながら、その人らしく自分のペースで穏やかに生活できるよう一人ひとりの思いに寄り添う支援がされている。家族との信頼関係も築いている。
- ・地域の清掃活動や交通安全週間には交通指導に出たり、老人会の会合やオレンジカフェで認知症についての学習会や悩み相談を受けるなど、地域の一員としてのつながりを大切にしている。
- ・地域での地震を想定した災害訓練を市職員や防災士・地域住民・関連業者等の協力で実施し、福祉避難所を開設するなど地域との協力体制を築いている。炊き出し、地震体験車、取り残された等の想定で地域の方の自宅まで救援に行くなどを体験している。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者本位の理念の下に入居者の皆さんがその人らしく自分のペースで生活できるよう支援している、月に一度のミーティングで具体的なケアについて職員間で話し合い意見の統一を図っている。	理念に「地域の中でその人らしく暮らし続けることができるように…」と掲げ、一人ひとりのペースで生活できるよう支援しており、日々のケアの中で理念の振り返りを行っている。また、月1回のミーティングで職員間の意見の統一を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭り、運動会などの行事に積極的に参加し施設の行事にも地域の方や幼稚園の園児に参加していただくなど交流を図っている。地域の方とは散歩の途中に花や作物の差し入れなどふれあう事も多い。	地域の祭りや小学校の運動会、締め縄づくりに参加したり、施設の行事では地域の方や幼稚園児との交流、正月のお神楽の訪問がある。また、早朝の交通安全の呼びかけや毎月の地域の清掃活動に参加し地域との繋がりを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	老人会の会合やオレンジカフェでは認知症への理解や接し方などの学習会、認知症の家族の悩みや相談を受けている。人材育成の貢献として中学生の職場体験も受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度の運営推進会議では施設の取り組み内容や具体的な課題など地域住民、行政、入居者、家族など委員から率直な意見や要望を受け、双方向的な会議になるように配慮している。	2ヶ月に1回の運営推進会議で、入居者の状況や施設の取り組みについて説明、各委員から意見等をもらっている。区長から地域の行事を教えてもらい運営に反映している。地震を想定した訓練では取り残された地域の方を自宅まで救援に行った。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入居者や職場の課題の解決の為には市町村の理解や支援が必要な事も多く様々な相談を電話連絡や訪問により行い意見やアドバイスを貰うなど積極的に連携強化に努めている。	市の担当者とは事業所の課題や疑問点などの相談に対して適切なアドバイスや意見をもらうなど日頃から協力関係を築いている。防災訓練実施に向け、市の担当者や防災関係者も参加し、取り組みについて何度も話し合いを行った。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な勉強会では職員自身が身体拘束による身体的、精神的苦痛を理解し拘束のないケアに努めており管理者は拘束しないケアに対して予想されるリスクなど家族と率直に話し合い理解を得るようにしている。	身体拘束をしないケアについて定期的に研修会を行っており、職員は正しく理解し拘束をしないケアに取り組んでいる。管理者は家族に対しても、拘束したことによる弊害やリスクについて話をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会では高齢者虐待防止法に関する理解浸透や遵守に向けた取り組みを行っている。ミーティングでは普段の何気ない声かけや良かれと思い行ったケアが虐待にあっているのではないかなど検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に勉強会を開催し入居者の権利擁護に対する理解を深めている。成年後見人が必要なケースはほとんどないがあった場合でも管理者が対応しており他の職員は理解できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は重要事項、事業所のケアに対する取り組みや考え方を丁寧に説明している。介護報酬の改定などにより利用料が増加する場合は個別に相談や説明を行うなど一方的な通達にならないよう配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には面会の際などこまめに生活状況を報告したり何気ない世間話をするなど意見や要望が言いやすい雰囲気作りに努め意見や要望に対してはミーティングやその都度、職員間で話し合い反映させている。	家族には、面会時に近況を報告し、その都度意見や要望について聞いている。利用者は日々の関わりの中で聞き、出された意見等は職員間で話し合い反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングで職員の意見や要望を聞くようにしているが言い難い部分も多く把握しきれない事もある。日頃からコミュニケーションを図りできるだけ問いかけたり、聞き出したりするようにしている。	毎月のミーティングで職員の意見や要望を聞く機会を設けている。また、日頃からコミュニケーションを図り、話しやすい工夫をしている。出された意見や提案を話し合い、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の疲労やストレスの要因について気を配り勤務時間中に気分転換できるよう時間や場所を確保している。職員の話をも十分に聞きねぎらいの言葉をかけるなど向上心を持って働けるような職場作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の法人内研修、他施設への見学や外部研修会に参加できるよう情報を収集し多くの職員が参加できるように努めている。ミーティングでは研修報告を行い報告書は全職員が観覧できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内に連絡会があり定期的なグループホームへの見学や交換研修、事例検討会を実施している。事業所外の人材の意見や経験をケアに活かしサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の相談の際は自宅への訪問や施設に来ていただくなど話しやすい環境で必ず本人に会って心身の状態や本人の思いに向き合い受け入れていただけるような関係作りにも努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人と家族の思いの違いや家族同士の意見の違いも含めて家族の体験や不安、要望など思いに耳を傾けている、また本人との関係作りと同様に家族とも信頼関係が築けるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談の際は職員の訪問、事業所でゆっくり会話する時間を提供するなど本人やご家族の思いや状況を確認している。提案、相談を繰り返し信頼関係を築き納得してサービス利用ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者は人生の先輩であるという考えを職員が共有しており普段の生活や会話から教えていただく事も多い。またそういう場面が多くもてるようにセッティングや声かけに工夫している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の思いに寄り添いながら本人の日々の暮らしの出来事や気付いた事など情報共有に努めている。本人と一緒に支えていく為に家族と同じような思いで支援している事を伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご主人の月命日に娘さんと一緒に墓参りを続けている方や定期的にご主人と自宅へ外泊し地域に暮らす馴染みの知人、友人と自宅でお喋りするなど継続的な交流ができるように支援している。	家族との墓参りや自宅へ外泊し、知人や友人との交流、神社へお参りに行くなど馴染みの人や場所とのつながりを大切に支援が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性について情報連携しすべての職員が共有できるようにしている。ティータイムの時間など職員も一緒に多くの会話を持ち入居者同士の関係が円滑になるような働きかけをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所へ移られた方に対して入居者と一緒に遊びに行ったり利用契約が終了しても行事に招待したり家族からの相談を受けするなど継続的な付き合いができるよう心掛けている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中でたくさん会話するなど入居者の暮らしへの希望や意向の把握に努めている。意思疎通がうまくできない方はご家族からの情報や普段の表情や仕草からできるだけ思いを汲み取れるように努めている。	生活歴やライフスタイル、価値観などを家族に聞いたり、「その人らしさとは」を常に考えながら日々の関わりや会話の中から思いや意向を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その人独自の生活歴やライフスタイル、価値観などを把握する為にもご家族には本人のバックグラウンドに関する情報の大切さを説明し小さな事柄でも情報を伝えてもらい本人の全体像の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりの暮らし方や生活のリズムを理解すると共にできない事よりもできる事に注目するなど見落としがちな本人のできる力・わかる力を暮らしの中で発見できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族には日々のかかわりの中で思いや意見を聞くようにしている。また、職員や家族と本人本位で話し合い意見や要望を反映した入居者主体の介護計画になるようにしている。	面会時や日々の関わりの中で把握した思いや意向、ケアの実践・結果等の情報を基に話し合わせ、現状に即した介護計画書が作成されている。月1回モニタリングを行っており、状態の変化に応じて介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の身体状況および日々の暮らしの様子や職員の気づき、本人の言葉などを個別に記録している。すべての職員がいつでも確認できるようにしており始業前の確認は義務付けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者や家族の日々変化する状況や要望に応じて通院や送迎など臨機応変に対応できるよう準備している。急な家族の宿泊の際のベットや寝具の貸し出し、食事の提供も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議では地域の周辺状況や催し物などの情報提供があり活用している。隔週で移動図書館がホームに来る事でたくさんの中から自分の好きな本を選び読書の支援がスムーズにできている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後も馴染みのかかりつけ医や希望する医療機関へ受診している。基本的にはご家族同行の受診となっているが必要に応じて職員が受診に付き添い普段の様子や変化を伝えるようにしている。	馴染みのかかりつけ医や希望する医療機関を受診している。基本として家族同行で受診するようになっているが、同行できない場合は職員が同行し受診している。受診結果等は随時家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	准看護師の配置があり常に入居者の健康管理や状態の変化に応じた支援が行えるようにしている。また体調や状態の変化など気付いた事があればただちに看護職に報告し適切な医療につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し1週間に1度は職員が見舞うようにしている。できるだけ早期に退院ができるように病院関係者との情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に対しては入居契約時の説明や状態に合わせてできるだけ早い段階での話し合いを持つなど方針の統一を図っている。本人と家族の安心と納得を得られるように状況の変化のたびに話し合いを繰り返している。	重度化に対しての方針を入居時に説明しており、状況に応じて早い段階で家族と話し合いを持ち、また、状態の変化に伴いその都度話し合い、事業所でできることを説明し本人家族、職員と共に方針の共有を図っている。看取りはしていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に消防署の協力を得て救急手当てや蘇生術の研修を行っている。夜勤時の緊急時の対応についてもマニュアルを整備し主治医や家族への連絡体制など周知徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防署の協力を得て避難訓練を行い避難経路や消火器の使い方などを確認している。地域とも地震を想定した災害訓練を実施し福祉避難所を開設するなど地域との協力体制を築いている。	年2回消防署の協力のもと昼夜の避難訓練を実施し、避難経路の確認をしている。市や地域の協力のもと地震災害訓練を実施し、事業所が福祉避難場所となっている。食事は業者がキッチンカーを出したり、またガス業者等とも協力体制が築けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	援助が必要な時も、まずは本人の気持ちを大切に考えてさりげない声かけやケアを心掛けている。職員の声かけや対応が尊厳やプライバシーを損ねるものになっていないか日常的に確認している。	尊厳やプライドを損ねないケアを心掛けており、だんだん出来なくなってきたことなどはさりげなく声掛け誘導をしている。また対応の仕方や声掛け等適切であったかどうか職員同士で確認し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の決めた事を無理強いせず複数の選択肢を提案するなど自己決定できるように配慮している。意思表示が困難な方には表情や反応を読み取るなど些細な事でも本人が決める場所を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や食事の時間など入居者一人ひとりのペースを大切にしそれに合わせた暮らしの支援に努めている。その日の体調の様子を見ながら本人の希望を尋ねたり相談しながら過ごしていただくようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の着替えは基本的に本人の意向で決めており職員は見守りや必要な支援を行うようにしている。自己決定がしにくい方に対しては衣類を一緒に選ぶなど本人の気持ちに沿ったケアを心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事の配膳や盛り付け、食後の片付けなどできるだけ職員と入居者が共に行うようにしている。職員と入居者が同じテーブルを囲んで楽しく食事ができるような雰囲気作りにも努めている。	盛り付けや配膳など職員と一緒にいき、検食の職員と一緒にテーブルを囲んで食事をしている。業者との月1回の給食会議には、利用者の食べたい物など要望を伝え、献立に取り入れてくれる。最近はこちらし寿司やラーメンがあった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	普段から入居者の食べ物や飲み物の好みや苦手な物を把握できるように生活習慣や日頃の様子を観察している。毎月の給食会議では食事に対する入居者の意見や要望、食事の様子などを話し合っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者の状態に合わせて居室やホールの洗面台で口腔ケアの支援をしている。自分でできる方は声かけや見守り、最終確認を行いできない方にはブラッシングやうがいなど必要な支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄が困難な要因を把握し習慣や排泄パターンに応じた個別の排泄支援を行っている。本人のプライドを傷つける事なくさりげないケアを心掛けるなど安心してトイレで排泄できるよう配慮している。	一人ひとりの排泄パターンに沿ってトイレ誘導がされている。夜間のみポータブル使用者もいるが、リハビリパンツと尿取パットのみで気持ちよく過ごせるようトイレでの排泄支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方にはティータイムに牛乳やヨーグルト、フルーツなどを用いて十分に水分補給している。毎日のラジオ体操や歩行訓練など適度な運動も促すなどできるだけ薬に頼らず自然排便ができるように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	夜間や就寝前の入浴など入居者の希望に添えていない部分もあるが仲の良い方同士と一緒に入りたい場合やゆっくりと浴槽に浸かりたい方などに対してはできるだけ柔軟に対応している。	週3回の入浴で、午前、午後、一人ひとりなどの希望に沿ったり、タイミングに合わせて入浴支援をしている。声掛けや会話などでゆっくりと入浴を楽しんでもらえるよう工夫している。季節に応じてゆず湯なども取り入れている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中に活動的な生活を支援するなど生活のリズムを整えるように努めている。寝つけない方に対しては足浴や温かい飲み物を提供し職員とゆっくり会話するなど配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が薬の効能や副作用などを把握できるように服薬ファイルを作成している。服薬マニュアルの整備により服薬介助の際に日付と時間、本人確認を徹底するなど飲み忘れや誤薬防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理や園芸、手芸など入居者の長年の経験や知識を発揮できる場面を作っている。また得意分野で一人ひとりの力が発揮できるようお願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	生まれ育った地域の行事や神社への参拝などできるだけ希望に沿った外出支援を心掛けている。毎日、散歩に出かけたい方に対しては短時間でも外の空気を吸う事で入居者、職員共にストレス発散、気分転換を図っている。	散歩や買い物(ジャスコ、道の駅等)、地域の行事や祭り、神社の参拝など利用者の希望に沿った外出支援をしている。また、案山子祭りに出かけたついでに自宅を見て帰ったり、家族に声掛けし、太平楽の観劇と一緒に出かけている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族よりお金を預かり事業所で管理している方でも金銭の所持について希望者には本人の安心感や満足に向けて少額でも所持金を持っていただき自販機などで使用できるように家族と相談しながら支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年、暑中見舞いや年賀状を書く支援を欠かさずに行っている。職員が声かけを行い家族や友人に電話しやすい雰囲気作りに努めできるだけ本人が直接電話をしていただけられるように配慮している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの飾り付けや家具の配置など入居者と一緒に考えて自分が住んでいる家だという意識を高めてもらうようしている。生活感や季節感のあるものを活用するなど居心地の良さや心身の活力を引き出せるよう配慮している。	ホールは陽当たりが良く明るく、壁面には利用者と共に作った季節感のある作品が飾られ、廊下には行事の写真や習字などが貼られている。室温や湿度の管理もされており、ソファや椅子を配置し居心地よく過ごせる工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの日当たりの良い場所にソファやたたみを設置し心地良い空間を提供している。廊下や広いスペースに椅子を置き一人で過ごしたり仲の良い入居者同士で会話ができるようにも配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が安らぎを得るような馴染みの物、古い物が環境作りに欠かせない事を説明し自宅で使用していた椅子やテーブル、化粧台、写真など思い出の品々を持ち込んでいただいている。	部屋には家族写真や趣味の作品、使い慣れた椅子や化粧台など入所者一人ひとりの個性を大切に、以前の生活がうかがえ、居心地よく過ごせる部屋作りがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の身体状況に合わせてベットの起立バーの設置やナースコールの延長などを実施しているが離床センサーなど危険防止への取り組みが過剰なものとなり行動の抑制につながらないようにしている。		